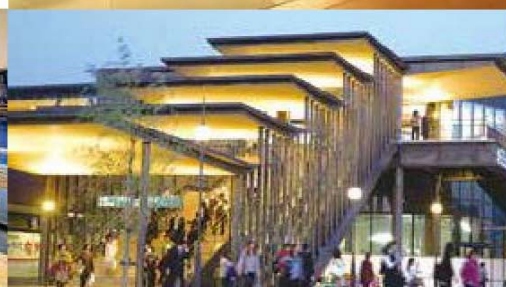




2018
第5回福岡県

木造・ 木質化 建築賞



ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産だけでなく、おいしい水や新鮮な空気の供給、土砂災害の防止などさまざまな機能を有しており、多種多様な面から私たちの安全・安心な暮らしを支えています。

この森林の持つ役割を持続的に発揮していくためには、森林資源の循環利用により、森林の世代サイクルの回復を図ることが重要です。

このため、県では、7割以上が利用可能な時期を迎えている本県人工林を有効に活用するため、「福岡県農林水産振興基本計画」に基づき、県庁1階ロビーの中央待合スペースをはじめとする県有施設の木造・木質化を進めるとともに、県産木材を活用した家具の販路開拓につながる全国規模の商談会への出展を支援するなど、県産木材の需要拡大を図っています。

また、これらの取り組みに加え、民間や市町村施設についても



福岡県知事
小川 洋

木造・木質化を推進するため、そのモデルとなる優れた建築物を「福岡県木造・木質化建築賞」として表彰しており、今回で第5回目を迎えました。

今回も、集合住宅や教育施設、宿泊施設など幅広い分野から応募いただき、選考委員会の厳正な審査を経て、大賞2点、優秀賞2点、特別賞2点、奨励賞3点、計9点の建築物を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。

受賞された建築物はどれも木のぬくもりや美しさ、柔らかさといった、木材ならではの特徴を生かした素晴らしいものです。ぜひお近くに行かれた際にはご覧いただき、木材の良さを感じていただきたいと思います。

県としましては、引き続き、県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいりますので、今後とも、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

選考委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまの、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

総評

第5回福岡県木造・木質化建築賞の選考が行われ、平成最後の受賞建築物が決定しました。平成の30年間は、振り返れば木造建築にとって大きな変化の時代でした。戦後の昭和の時代は、火災や

福岡県木造・木質化建築賞
選考委員会
委員長 藤本 登留

地震等の自然災害に強い鉄筋コンクリートが主流の都市づくりが進みました。平成に入り、大型木造建築や木造の防耐火建築の技術が発展し、都市部でも木造・木質化が推奨される時代になってきました。この木造・木質化の必要性は、京都議定書で求められた低炭素社会の推進に沿った形で求められてきました。一方、日本の森林資源は戦後の拡大造林木が成長し、森林は適正な間伐などの施業により、二酸化炭素の吸収源として期待されてきました。平成初期の国産材の需要開発は、この間伐材を主流とした正角材や小幅板などが対象でした。しかし、平成中期まで外材率は増大し、国産材率は二割を下回るまでになりました。建築用木材は、ペイマツの梁材などを除くと外国産の製材や集成材が増加しました。国産材の需要がまだまだ停滞していた時代といえます。平成中期以降、国産材率が上昇傾向を示すようになります。国産原木も中大径材が増え、伐期に達したスギなどの人工林材の生産が目に見えて増加してきました。国産材の生産、流通、加工体制が大型製材工場、プレカット工場を中心に充実するとともに、政策的にも平成22年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が制定されました。建築基準法も木造にとっては追い風となる改善が行われています。福岡県木造・木質化建築賞がスタートした5年前には大型公共建築の木造施設や、内装木質化した非木造建築が多く見られるようになっていました。このような中、木材の運搬の省エネルギー化や違法伐採の防止、さらに地域循環型社会の構築のために、無理のない範囲で地域木材を有効活用することが求められますが、本建築賞の応募作品

は、この貴重な先進事例が多く含まれています。人工林資源が質的、量的に充実し、平成の後半からは国産材率や国産材利用材積が増加に転じ、少しずつですが順調に国産材時代に近づいているなかで、大径材利用など地域の森林資源に応じた建築材料への適用事例が、今年度の本建築賞でもご紹介できることをうれしく思っています。なお、受賞作品以外にもご紹介したい作品はたくさんありました。再度の応募を期待しているところです。

本年度は応募作品29点の建築物を選考しました。

第1次選考では、6名で構成する選考委員会によって平成30年11月21日に書類審査を実施し、協議および投票によって9点の建築物を現地審査の対象に選出しました。応募された建築物は、戸建住宅、集合住宅、宿泊施設、保育所、幼稚園、学校、商業施設、葬祭場、社寺、駅舎、交流施設などです。木材の特性を考えた無理のない賢い使い方がなされるなど、木造建築の基礎技術が向上しつつあることを感じました。

第2次選考となる現地審査は、12月18日、27日の2日間にかけて実施しました。対象の9点の建築物を現地審査したうえ、選考委員会で協議および投票によって木造の部、木質化の部の大賞、優秀賞のほか、特別賞2点、奨励賞3点の受賞建築物を決定しました。木造の部の大賞は、中山間地の移住者を受け入れる長屋形式の木造集合住宅です。構造材を含め現しの木材を大量に採用し、地域の豊富な森林資源を活用した魅力あふれる2階建て長屋建築です。木質化の部の大賞には、町産材にこだわった木造の町立幼稚園です。1000㎡以下の木造部を鉄筋コンクリート造の耐火建築部でつなぐことで、多くを無理のない木造在来工法としつつ、ヒノキの床材と腰壁と現し構造材などで過度に木材を押し付けることなく居心地のいい木質空間を作り出しています。

そのほか、優秀賞が木造の部と木質化の部それぞれ1点、特別賞が2点、奨励賞が3点となりました。いずれも魅力的な木造・木質化建築物です。

最後に、応募していただいた皆様、審査にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

福岡県木造・木質化建築賞

【表彰の目的】

県では、充実した森林資源を有効に活用し、森林の世代サイクルの回復を図るため、住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

【賞の対象】

県産木材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

【賞の部門】

木造の部(大賞・優秀賞) 木質化の部(大賞・優秀賞) 特別賞 奨励賞

【主な選考基準】

- 国産材を積極的に活用し、林業振興に寄与しているもの
- 木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造・木質化に波及効果があるもの

【選考委員】

役職名	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部 建築・デザイン学科教授
委員	土師 淳志	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	藤崎 眞二	西日本新聞社編集局生活特報部長
委員	村田 英晃	福岡県農林水産部林業振興課長

木造の部 大賞

里山ながや・星野川

所在地:八女市



建築主 | 八女里山賃貸株式会社 代表取締役 長谷川繁
設計者 | 有限会社アトリエ・ワン 一級建築士事務所
塚本由晴、貝島桃代、玉井洋一
施工者 | 友建設 代表 今村英機
建築物の用途 | 賃貸住宅(長屋)
構造・規模(階数) | 木造・地上2階
延床面積 | 364.44㎡

設計趣旨 | 里山で暮らす際に『何と』共生するか。①野菜などを育てられる地面に近い空間(土間/菜園)。②南北の風通しのよい空間(大きな建具の空間/木製格子)。③野菜や果物が干せる空間(深い軒)。④ひだまりに身を委ねることのできる空間(窓辺のベンチ)。⑤地域の資源とともに(八女材をふんだんに使う校倉工法)。これらをコンパクトなメゾネットにまとめた。杉・檜の無垢材は地元八女で調達し、杉本来の特徴を生かすよう手刻み加工も施した。





写真撮影: ©Atelier Bow-Wow

講評

木造2階建てのメゾネット式賃貸集合住宅です。中山間地に移住する家族向けに計画されたオープン的な長屋になっています。敷地は中山間地にある元学校の校庭です。長屋の外壁は杉板で覆われ、里山の校庭とマッチした景観を呈しています。多くの木材資源を有する自治体で、地元木材を活かした建築にするために板倉構法を採用しています。板倉構法はスギの厚板を壁に使い、断熱性、耐火性、調湿性などの木材の良さを引き出すことができます。全国各地で住宅建築に広まりつつある構法ですが、まだ一般的ではなく、地元職人による施工には十分な工程の検討が必要であったことから、早めの部材加工手配が行われています。柱や梁は現して地元スギ材が使われ、スギ壁板やスギ床材とともに天然材料で囲まれた温かみある内装となっています。長く出た軒の下にある2階出窓が各戸印象的に並んでおり、地元野菜や果物を干せる場所としても機能しています。中山間地移住を希望する人の心を揺さぶる魅力的な木造長屋です。



木質化の部 大賞

久山町立けやきの森幼稚園

所在地: 糟屋郡久山町



建築主 | 久山町
設計者 | 意匠: 株式会社環・設計工房 鮎川透、杉本泰志、室伸之介
構造: 株式会社川崎構造設計 川崎薫、宮崎大介、山部雅貴
基本計画: 株式会社アキヤマインダストリー 秋山篤史
施工者 | 香椎・パワーハウス特定建設工事共同企業体 城戸幸信
建築物の用途 | 幼稚園
構造・規模(階数) | 木造+鉄筋コンクリート造・地上1階
延床面積 | 2,000.93㎡

設計趣旨 | 一つの木造部を1,000㎡以下とし、RC造の耐火部分で区分して、耐火被覆や燃えしろが不要な在来木造で設計した。安価で木の良さを活かした建物外観を実現し、屋根は小割にすることで、景観へ調和させた。内外部の空間を「芝生-外部軒下-内部廊下-保育室」のグラデーションで園庭を囲んで連続させ、木造ならではの曖昧な中間領域で多様な遊び・育ち空間を作り出した。町ではこれまで30人が手を繋ぎ輪になれる広さでの教育を進めており、本建築物では9m角の空間を135×180の地場産檜で組んだトラスで優しく覆う事で実現した。





写真撮影: イクマサトシ (Techni Staff)

講評

町立統合幼稚園を町有林の木で建築するために、竣工3年前から各関連機関と材の調達から設計、工程管理などを事前に協議しています。町の教育方針に沿った幼稚園としながら、低コストで無理なく効率的に地元材を使うため、立木の形状、強度を調査して町有林での量的、質的な供給可能性を確認するとともに、設計構造部材の木取材種の決定、統一化が行われています。十分な材料調達、加工期間を確保するため材工分離発注も実施されています。無理のない大スパン空間は、トラスや頼杖付き登り梁で構築され、一部集成材なども利用されています。1000㎡以下の2つの木造部をRC構造部の両側に配置することで、木材の被覆や燃えしろ設計などの制約を必要としない木造建築を実現しています。内装はヒノキ床材、腰板、明るくクロスなどとともに軽快な現しの小屋組みで、明るく元気に園児が過ごせる雰囲気を作り出しています。広場を取り囲む園舎は深い軒下を介し廊下と広場が連続しています。外壁にはヒノキに保護着色塗料を塗装して耐久性を確保しています。



木造の部 優秀賞

小屋の間

所在地:糸島市



写真撮影:坂口写真事務所 坂口正臣

建築主 | 個人
設計者 | 株式会社松山建築設計室 代表取締役 松山将勝
施工者 | 株式会社イコー福岡 代表取締役 塚崎義治
建築物の用途 | スタジオ併用住宅
構造・規模(階数) | 木造・地ト1階
延床面積 | 128.69㎡

設計趣旨

建築を敷地の対角上に配置し、分節されたふたつの領域(集落側に解放された外庭と山側のプライベートな内庭)を建築に内包された土間によって緩やかにつなげ、領域間に生じる『間』によって視覚的な解決策を講じると同時に、開放的な住環境を獲得しようと試みた。建設の骨格は、1間半のモジュールが連続する単純な架構で構成されている。その中の3つのグリッド(3間×3間)を室内とし、その間に外部化された土間空間と内部化された土間空間を挿入して、平面ではスタジオと居住空間が独立した状態を保った。一方で、断面では連続する小屋組みによって互いの領域が分断する事なく、ひとつつながりの空間として場が拡張していく状態を創り出している。

講評

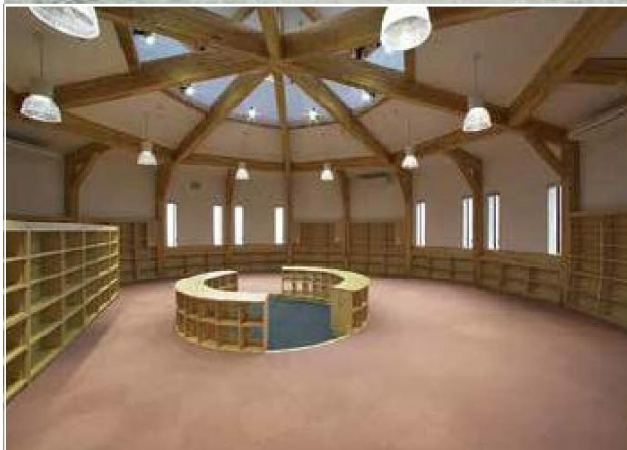
写真家の撮影スタジオを併用した木造平屋住宅です。長い単純な切妻屋根の小屋組みの下には、スタジオの部屋、寝室・浴室・トイレなどの部屋、居間の3つの3間角の部屋を土間で繋げた開放的な作りです。スギの柱や梁を現しとした真壁工法は、この集落の古い伝統工法の民家が隣接することに違和感を感じさせない様式となっています。山間地の景観に合わせて、外壁はスギ下見板が採用され、大きく深い軒は土間に人を迎い入れる優しい表情を感じさせてくれます。



木質化の部 優秀賞

広川町立下広川小学校

所在地：八女郡広川町



建築主 | 広川町
設計者 | 株式会社建築企画コム・フォレスト
代表取締役 林田俊二
施工者 | 大藪・やひめ特定建設工事共同企業体
代表 株式会社大藪組 代表取締役社長 石井正
建築物の用途 | 小学校校舎・地域交流施設
構造・規模(階数) | 木造・地上2階
延床面積 | 5,014.64㎡

設計趣旨

豊富な資源である地元の木材を構造材・内外装材に多用し、「子供の居場所」としての学びの場を周りの環境と一体にすることにより、やさしさとぬくもりのある、地域の集いの場とした。また、木造校舎自体が大工の技術や木の特性を伝える直接的な教材となるため、光・風・木の香りなど自然をいっぱい感じられる空間とし、地球環境にやさしく、ふるさとや自然の大切さを学べる学校環境とした。加えて、地域の人々に親近感を与え、地域の象徴として愛される施設を目指した。

講評

木造の2階建て小学校です。地域の豊富な森林資源を活用し、構造材や床、外装にスギ、ヒノキを多用することで優しく温かみある空間を作り、教育に好ましい場を提供しています。また、内層家具やサインにも地域材が使われています。多目的ホールは湾曲集成材でシンプルな小屋組みとし、意匠的にも魅力的な大空間です。準耐火構造の柱、梁は燃えしる設計を採用し、力強い木構造を見せています。

特別賞 (順不同)

奥八女別邸やべのもり

所在地:八女市

建築主 | 八女市

設計者 | 有限会社井上建築事務所 代表取締役社長 井上文雄

施工者 | 1工区:株式会社石崎組 代表取締役 石崎伸一

2工区:株式会社黒木建設 代表取締役 服部伸文

3工区:やひめ建設株式会社 代表取締役 大石秀夫

建築物の用途 | 簡易宿泊所

構造・規模(階数) | 木造・地上1階

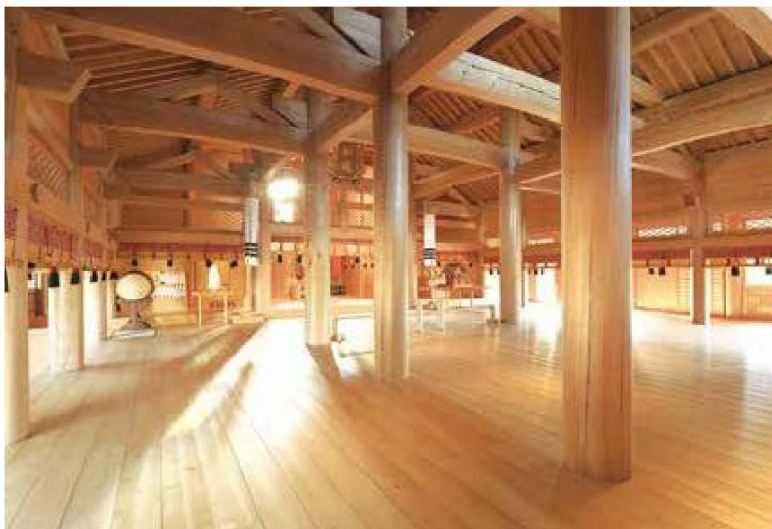
延床面積 | 681.3㎡

設計趣旨

自然豊かな環境を生かした滞在型観光を促進することで、新たな賑わいと活力ある山間部振興を目指した宿泊施設の計画である。フロント・レストランを備えた本館と全7棟の客室は全て趣の異なる平屋造りの離れて構成された施設としている。クヌギ・ケヤキ・シャクナゲなどの植栽、黒い壁と寄棟屋根の深い軒を持つファサードは、山里に溶け込み凜として佇む宿とした。矢部川を望むレストラン、土間リビング、中庭を一望できるリビング、庭を眺める浴室など、それぞれ違った演出をする客室は、日常と異なる「もり」で過ごすことができる。

講評

7棟の別棟木造平屋宿泊棟をもつ簡易宿泊施設です。地域スギ材を構造材としている宿泊棟です。スギの表情は強いて前面に出さず、敷地の広葉樹植栽や里山の背景に合わせたシックな外装塗装と深い軒を持っています。屋内でも構造用木材を現しとして見せず、大壁構法で洋風室内の要素をもたせています。また、家具や建具の木製品でシックな落ち着きを醸し出し、モダンで高級感も感じられる憩いの部屋を作り出しています。



分指霊山 宝満神宮寺 祈祷殿

所在地:糟屋郡須恵町

建築主 | 宗教法人 根本山 宝満堂 代表役員 山下英子

設計者 | 株式会社船越建築設計事務所

代表取締役 都地宏和

施工者 | 有限会社南建築 棟梁 南良夫

建築物の用途 | 神社

構造・規模(階数) | 木造・地上1階

延床面積 | 450.92㎡

設計趣旨

すべて国産材を使い、古代人の限りない素直さと力を感じ、日本人の生き方、地球の未来への指針を示す御社を再現したいと考えた。樹齢二百年以上の用材すべてを鉋仕上げし、柱一本一本、桁一本一本まで磨きあげた美しい用材となった。釘を使用せず、すべて木組みでつなぎ合わせた柱だけで連結させた。若杉山の杉の御神木が中心に立つだけの簡素な、さわめて森厳な神殿である。太陽が真東から昇る春分と秋分には神殿の上の窓から真っ直ぐに光が差し込んで神殿が光に満たされる。

講評

大径円柱が印象的な神社の木造祈祷殿です。一般的に見ることばできない200年生以上の大径円柱材をはじめ内外壁や梁に能登ヒバが使われています。柱だけでも96本が調達され、木材をそろえるだけでも3年を要しています。大径の円柱はすべてカンナ仕上げで作られており、非常に苦勞した加工だと想像され、1本1本のスケールの大きさに圧倒されます。円柱が立ち並ぶ祈祷殿内は神聖な空間を作り出しています。構造はくぎを使わない木組みで施工されており、大断面材の仕口加工だけでも大変な加工手間を擁していたと想像できます。職人技が活かされた丁寧な仕上がりとなっています。まさに太古の森を想像できるスケール感です。

奨励賞

(順不同)



福岡県立福岡高等技術専門学校

所在地: 福岡市東区

建築主 | 福岡県
設計者 | 松田平田設計・西日本技術開発・
テクノ工営西日本支社設計共同体
施工者 | 西鉄・旭・博栄特定建設工事共同企業体
鹿島・西中洲樋口・まつい特定建設工事共同企業体

建築物の用途 | 職業能力開発施設
構造・規模(階数) | 鉄筋コンクリート造・地上5階
延床面積 | 10,719.39㎡

設計趣旨

「ものづくりの知識・技術・実践の統合を象徴するデザイン」をコンセプトに、技術者の育成だけでなく、施設見学等を通して地域への情報発信も行なう施設づくりとした。内部の壁や天井に加えて、ピロティ軒天及びバルコニーの外壁といった雨掛かりの影響が少ない部分にも県産木材を活用し、建物外部へ積極的に木材利用を見せる設計とした。なかでも本施設の顔となる本館棟2階部分には、博多曲物をデザインモチーフとした「曲げホルルーバー」をカーテンウォールの内側にしつらえ、福岡のものづくりの精神・実践のアピールポイントとして外観に取り込んだ。



林地残材と団地とシニアの共存建築

所在地: 北九州市小倉北区

建築主 | 株式会社アクティブ・ライフ・サポート
代表取締役社長 三村和礼
設計者 | 株式会社タムタムデザイン 代表取締役社長 田村晟一郎
施工者 | 株式会社ヴィリオ 代表取締役社長 寺井智彦
建築物の用途 | デイサービス・店舗
構造・規模(階数) | 鉄筋コンクリート造+コンクリートブロック造・地上12階
延床面積 | 129.69㎡(デイサービス)・86.5㎡(惣菜店)

設計趣旨

「林地残材」は根元の曲がりが大きく「商品価値が無い」木材である。この「商品価値が無いという価値」を逆手にとり、山→製材所→加工製材所→施工主、という新たな流通を確立した。施工主、設計者、施工者が山へ足を運び、林地残材に対する森林所有者の想いを聞き、技術や歴史、先人たちの想いを感じたことで、本質的なサービスを利用者に提供できるプロセスとなった。店舗部分のカウンターは、1枚ものの板材では無く2mごとに継手がある。この継手が「林地残材」の証となり、人々をつなぐ証となる。

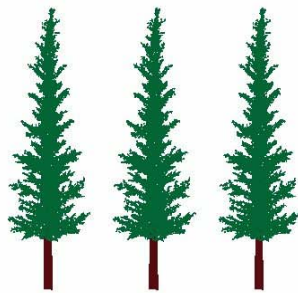


西鉄柳川駅・自由通路 所在地: 柳川市

建築主 | 西日本鉄道株式会社 代表取締役社長執行役員 倉富純男
柳川市
設計者 | 九建設株式会社 代表取締役社長 井上精二
株式会社WAO渡邊篤志建築設計事務所 代表取締役 渡邊篤志
施工者 | 西鉄建設株式会社 代表取締役 脇山雅範
株式会社安藤・間 九州支店 執行役員支店長 大西亮
建築物の用途 | 駅舎・自由通路
構造・規模(階数) | 鉄骨造・地上2階
延床面積 | 548.2㎡(駅舎)・867㎡(自由通路)

設計趣旨

ふんだんに使用した八女産の天然杉材が来訪者を柔らかな空間で迎え入れ、どんご船の曲線をイメージした自由通路の屋根は、柳川らしさを印象づけるデザイン表現である。天井の仕上げには良質の八女杉を活かした木製ルーバーを用いた。駅前面はガラス貼りとして自然光を取り入れ明るく開放的な雰囲気となるようにした。



2018 第5回福岡県木造・木質化建築賞

平成31年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3549 FAX092-643-3541

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzou5kettei.html>

この冊子の用紙は、福岡県産の間伐材を使用しています。

福岡県行政資料	
分類記号 PF	所属コード 4701002
登録年度 30	登録番号 0004